

(施策評価表73)

【施策番号IV-15-①-1】

取組みの方向性	百年の礎を築く	戦略	【戦略15】夢を叶える教育 ～次代を担う人材を育てます～	主な施策	◆学力を育む ～子どもたちの確かな力の育成～
			①夢を育む教育の推進		

1 取組内容	2 主な事業	担当課	H25予算(千円) H24決算(千円)	3 平成24年度の主な成果	4 平成25年度の推進方針・推進状況	5 施策を推進する上での課題	6 今後の方向性
<p>・地域の人材等を活用して、小学校低学年から「読み、書き、計算」の基礎学力を徹底して身につけさせ、確かな学力の向上を図ります。また、我が国や郷土くまもとの歴史・文化などを理解し、愛する態度の醸成や、道徳教育の充実により豊かな人間性を育むとともに、健康・体力の向上を図り、社会人として基礎的な資質を育みます。</p>	「授業マスター」認定事業	教育政策課	1,366 381	・優れた教育活動を行っている教員19名を授業マスターに認定し、13回の公開授業開催により、参加者数が延べ733人となり、年度目標を達成した。	・授業マスターの認定者数増及び授業VTRの県教育庁HP公開等により、本県教員の更なる指導力向上を図る。	・多くの教員の公開授業等への参加機会等を確保しつつ、授業マスター及び所属校の負担軽減を図る必要がある。	・25名を目標に、授業マスターを毎年数名ずつ新たに認定していく。
	熊本県教育情報化推進事業 (ICTを活用した「未来の学校」創造プロジェクト)	教育政策課	6,217 -	・サポーターを小中学校に19名、特別支援学校に13名配置し、学習指導や日常生活の支援等の充実、教員の負担軽減による指導時間の増加が図られた。	・教科指導等においてICTを効果的に活用することで、児童生徒の確かな学力の向上を図る。	・タブレットPCや無線LAN環境等の情報環境の整備が必要である。	・教育情報化推進事業の効果を全体的に普及啓発し、児童生徒の情報活用能力の育成やICTを活用した確かな学力の定着化を実現させる。
	「幸せ実感」教育サポート事業 (「夢への架け橋」教育支援事業)	学校人事課	42,397 40,408	・県内23市町村で地域教育コーディネーターを育成、活用し、地域による学校支援が充実した。	・サポーターを配置したことにより一定の効果が得られ、児童生徒と向き合う時間も拡充されているので、今年度はより一層活用を充実させる。	・学校からの要望に対応するためのサポーターの活用幅の拡大や配置可能人数の増加が必要である。	・サポーター配置を継続して、教員の児童生徒と向き合う時間を確保し、小中学校では児童生徒の指導支援等、特別支援学校では自立活動等の指導の充実を図る。
	地域教育コーディネーターの育成活用事業	社会教育課	17,812 14,908	・子どもたちの読書活動の推進のため、養成講座を開いて読書応援ボランティアの資質向上を図るとともに、学校図書館の環境整備等を目的にデザインサポーターを県内小中学校等へ派遣し、学校図書館の充実が図られた。	・地域教育コーディネーター研修により地域人材を活用した学校支援活動の推進を図る。	・地域人材の活用に向けた市町村間、学校間、教員間の意識の差を埋める必要がある。	・地域人材による学校支援活動の拡大を図っていく。
	読書応援ボランティア養成講座	社会教育課	425 391	・くまもと教師塾等の取組みを通して、難関大学を志望する生徒への実践的指導力向上を図った。H24年度の東京大学の新卒合格者数は前年より6人増加の14人となり、過去5年間で最多となった。	・子どもの読書活動の推進のため、養成講座を引き続き開き読書応援ボランティアの資質向上を図るとともに、学校図書館デザインサポーターの派遣も継続する。	・県内全高等学校の大学等進学率は43.6% (全国35位(H25.3卒))で全国平均(53.2%)より低いため、これを高める必要がある。	・読書応援ボランティアの活動の場の確保や、学校図書館デザインサポート事業の広報を更に進めていく。
	学校図書館デザインサポート事業	社会教育課	1,196 1,098	・徹底指導と能動型学習とのめりはりをつけた授業の推進をはじめ、学力調査のための問題「ゆうチャレンジ」の活用等により授業内容が一層充実した。	・教員の更なる資質向上のため、特別講座、理数教育指導者育成講座等に加えて、「くまもと夢への架け橋ゼミ」を新規に実施する。	・本県の児童生徒の学力について、問題解決に必要な思考力、表現力等の向上を図る必要がある。また、そのための教師の意識改革及び指導力の一層の向上、授業改善が必要である。	・大学等進学率47%の達成に向け、「夢への架け橋」進学支援事業の効果的な実施を進めていく。
	「夢への架け橋」進学支援事業	高校教育課	7,900 4,482	・小・中・高の教員に対する体育実技指導者講習会の開催や、子どもの体力向上支援委員会の取組みに基づき「子どもの体力向上のための8か条」を策定した。その結果、全校体育等体力向上の取組実施校が増加した。	・本県の児童生徒の課題である思考力や表現力等の向上を図るため、各学校において「確かな学力」の向上に向け、全国学力・学習状況調査の分析をもとに指導を行い、その成果等を県学力調査で検証するなど、学力のPDCAサイクルに則った学校総体としての組織的、計画的な取組みを推進する。	・モデル校設置における地域人材の確保及び、学校・保護者・地域との連携を図る必要がある。	・調査・分析により、県学力調査意識調査の教科の学習が「好き(分かる)」と回答した児童(小3)の割合が毎年度、前年度を上回るようにする。また、そのための「ゆうチャレンジ」等を活用した学校総体としての学力向上に向けた取組みを進めていく。
	学力向上対策事業	義務教育課	11,284 10,272		・モデル校を設置し、各学校における地域の人材を活用した、体力向上の取組みを進める。また、子どもの体力向上実施委員会を設置し、新体力テストの調査分析や体力向上の取組みについて提案を行う。		・親の学びを支援した幼稚園・保育所等の割合が100%となるよう、職種や経験等に 応じた教員・保育士の研修等を実施していく。
	子どもの体力向上推進事業	体育保健課	2,904 1,028				
	<p>・幼児期から、家庭において基本的な生活習慣を身につけることができるよう、「教育の出発点は家庭から」を合い言葉に親の学びを支援します。</p>	「親の学び」推進事業	社会教育課	6,589 1,618	・県内全域870カ所にくまもと「親の学び」プログラムを活用した「親の学び」講座が開催され、34,857人の参加があった。また、各地域で進行役を養成したほか、これまでの乳幼児期編と小学生期編に加え、中高生期編及び次世代編の普及啓発を実施し、「親の学び」講座実施率は、61.7%となり、年度目標を達成した。	・全ての小中学校(区)での「親の学び」プログラム講座の実施をめざすとともに、高等学校における次世代編の普及を図る。	・協力校を中心に、「親の学び」プログラム中高生期編及び次世代編を普及啓発していく必要がある。
「かがやけ! 肥後っ子」事業		義務教育課	3,127 2,381	・家庭教育支援の総合的、継続的推進のため、「くまもと家庭教育支援条例」を制定し、家庭教育の重要性に対する理解が一層深まった。	・各実施団体が行う「親の学び」講座にプログラムトレーナーを派遣することにより、県内全域において講座の進行役を育成する。	・県内全域で「親の学び」講座が行われるよう、継続して各地域で進行役を養成していく必要がある。	
				・幼稚園教員・保育士等の資質向上の研修を実施し、学習機会を提供するとともに情報提供等を充実させた。	・「くまもと家庭教育支援条例」を柱に、家庭教育推進フォーラムや家庭教育支援功労表彰等の様々な機会を通じて、家庭の役割や家庭教育の重要性の啓発を広くしていく。	・幼児期から家庭での基本的な生活習慣を身につけることができるよう、幼稚園・保育所等による専門性を生かした親の学びの支援をさらに充実させる必要がある。また、そのために継続して幼稚園教員・保育所保育士等の資質向上を図る必要がある。	
					・幼稚園教員・保育士等の研修を継続し、資質向上、家庭の教育力向上のための支援の充実資する。		

(施策評価表73)

1 取組内容	2 主な事業 〔上段:H25事業 下段:H24事業〕	担当課	H25予算(千円) H24決算(千円)	3 平成24年度の主な成果	4 平成25年度の推進方針・推進状況	5 施策を推進する上での課題	6 今後の方向性
<p>・くまモンを子どもたちの教育活動に活用します。</p>	放課後子ども教室推進事業	社会教育課	20,681 16,606	<p>・くまモンが先生となった英語教室を御領鬼池小学校の放課後子ども教室で試行的に実施し、英語学習への関心が高まった。</p>	<p>・くまモン活用の教材を検討する。</p> <p>・放課後子ども教室等でくまモン先生として実施できるプログラムの開発と実施のための整備を検討する。</p>	<p>・教育現場や「くまもとキッズウィーク」でのより効果的なくまモンの活用法を検討する必要がある。</p>	<p>・くまモンが活動できる教育プログラムの開発を推進するほか、「地域の寺子屋」へも活用していく。</p>
	かがやけ！肥後っ子事業	義務教育課	3,127 2,381	<p>・「くまもとキッズウィーク」に参加する幼稚園、保育所、小学校、5カ所にくまモンを派遣し、くまモンと一緒にクイズやゲーム等を楽しむことを通して基本的な生活習慣の定着が図られた。</p>	<p>・インターンシップや農業体験の場でのくまモン活用により、キャリア教育等のPRを進める。</p>	<p>・話さずにくまモンが指導できるプログラムを開発する必要がある。</p>	<p>・キャリア教育関連事業、農業体験の場での活用を進める。</p>
	子どもの体力向上推進事業	体育保健課	2,904 1,028	<p>・「くまモン体操」テーマソングに合わせたエクササイズを作成し、くまモンとエアロビック競技者の大村選手による「親子運動教室」を県内小学校にて実施するとともに、県内学校へ同映像を収録したDVDを配付した。また、「くまモン誕生祭」でエクササイズ発表会を実施し、県民に対して広報した。</p>	<p>・「くまもとキッズウィーク」参加幼稚園等へのくまモン派遣、クイズ等による基本的な生活習慣の定着化を継続する。</p>		<p>・「くまもとキッズウィーク」での効果的な活用に向け、具体例を示すなどとして、幼稚園、保育所、小学校等を支援する。</p>
					<p>・運動実施時間の少ない子どもたちが日常的に運動を行うよう、発達段階に応じ、くまモンを活用したオリジナルエクササイズの活用を県内小・中学校等に勧める。</p>		<p>・くまモンを活用したオリジナルエクササイズの普及を進め、学校や家庭等で運動する子どもを増やし、日常的な運動が広がることを支援する。</p>
<p>・多様化・深刻化するいじめや不登校など様々な学校での課題に的確に対応するため、スクールソーシャルワーカーを増員するとともに、対象を高校生まで拡大します。</p>	スクールソーシャルワーカー配置事業	高校教育課	18,608 2,131	<p>・スクールソーシャルワーカー（SSW）を高等学校1校に配置した。また、すべての教育事務所に配置し、568人に対して継続支援を行った。</p>	<p>・高等学校2校にSSWを新たに配置する。また、すべての教育事務所及び山鹿市教育委員会にSSWを配置し、児童生徒に対する支援体制を充実させる。</p>	<p>・SSWとして指導力を有する人材の確保、指導力向上に向けた研修の実施を進めていく必要がある。</p>	<p>・平成27年度以降は、3拠点校による実状を踏まえて配置の必要性を検証する。</p>
	子どもたちの未来を拓く教育環境改善事業	義務教育課	60,455 44,127	<p>・スーパーバイザー（有識者）によるSSWへの指導助言体制の充実などで、前年以上の課題解決等ができた(22→30%)。</p>	<p>・スーパーバイザー（有識者）がSSWに対して指導・助言を行う地域事例対策研究会の充実を図る。</p>		<p>・SSWによる児童生徒に対する支援体制を充実する。</p>
<p>主な施策のまとめ</p>				<p>●徹底指導と能動型学習とのめり合いをつけた授業の推進、学力調査のための問題「ゆうチャレンジ」の活用等により授業内容が一層充実。</p> <p>●「親の学び」講座の普及啓発の更なる充実。</p> <p>●「くまもと家庭教育支援条例」の制定により、家庭教育の重要性に対する理解が向上。</p> <p>●くまモンとエアロビック競技者の大村選手による「親子運動教室」を県内小学校にて実施し、体力の維持向上の意識が向上。</p>	<p>●高等学校における「親の学び」プログラム次世代編の普及及び進行役の養成。</p> <p>●くまモン活用の教材を検討。</p> <p>●思考力や表現力等の向上のため、各学校において「確かな学力」の向上に向けた組織的、計画的な取組みを推進。</p> <p>●家庭教育推進フォーラムや家庭教育支援功労者表彰等の様々な機会を通じて、家庭の役割や家庭教育の重要性について啓発。</p>	<p>●思考力、表現力等の向上に向けた教師の意識改革、指導力の一層の向上、授業の改善。</p> <p>●県内全域での「親の学び」講座実施に向けた進行役の養成。</p> <p>●効果的なくまモンの活用方法検討。</p>	<p>●「ゆうチャレンジ」等を活用した学校総体としての学力向上に向けた取組みの推進。</p> <p>●「親の学び」講座の実施率向上のため、市町村教委等と連携して開催。</p> <p>●くまモンが活動できる教育プログラム開発の推進。</p>